

≪資料②≫ 討議テーマ「市民・市民参加・(新しい)公共・地域コミュニティ」に関し、これまでの市民懇話会で出された意見の抜粋

討議テーマ		市民懇話会意見			
討議テーマ	具体的な討議テーマ	目指すべき姿・方策		現状	
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>保障されるべき市民の権利とは？</li> <li>自分勝手な市民にはどう対応したらいいか？</li> <li>事業者の責務とは？(環境、弱者への配慮、雇用など)</li> </ul>	市民の姿勢		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民も市政に責任を持つ</li> </ul>	
市民参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の声を市政に反映させる有効な方法とは？</li> <li>どうすれば市民は市政に参加しようとするか？</li> </ul>	市政への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想・開放的なまち</li> <li>理想・市民の意見がはっきり言えるまち</li> <li>理想・市民の声が聞こえるまち</li> <li>理想・市民の思いが実現できるまち</li> <li>理想・住民レベルでの話が施策に反映されるまち</li> <li>理想・多数の市民の意見が、より反映された行政が行われるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民・市民が自ら活動する</li> <li>市民・自主性の主張</li> <li>市民・行政に対して提案型の要望を出す</li> <li>市民・市民が自主的にボランティアに参加し、自主的に行動する</li> <li>市民・皆が協力しようと思う、思えるような呼びかけ</li> <li>市民・ひとつの目的のもとで、できることをできる範囲でともにやっている状況</li> <li>市民・小さな所まで呼びかけをする</li> <li>市民・学生ボランティアの低年齢化をさせる(幼稚園etc)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民がもっと意見を出すようにしたら</li> <li>閉塞的</li> <li>他の意見に流されやすい</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>行政・市民が気軽に自由に話し合える場のあるまち</li> <li>行政・市民と行政、市民と市民が話し合う場を持つこと</li> <li>行政・意見を出し合う場があること</li> <li>行政・行政から市民へ積極的に意見を求める</li> <li>行政・どんな職業の人も意見が出せる地域・行政</li> <li>行政・障がい者、高齢者、子供達 社会的弱者の意見、要望を取り上げながら、それぞれの立場に立って町づくりをする。</li> <li>行政・市に市民参加総合窓口を設置</li> <li>行政・意見受付係をつくる</li> <li>行政・意見を仕分け、集計する</li> <li>行政・意見が出ない人への配慮(声なき声の収集)</li> <li>行政・弱者の意見・考え方の反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加する人は何にでも参加しているが、参加しない人は何にも参加していない</li> <li>時間的余裕のある人、必要に迫られた人がしている</li> <li>若い世代の住民参加意欲が弱い(社会との接触を好まない)</li> <li>市民は市政に参加したいと思っているか</li> <li>お互いの意見・考え方がわからない、わかっていない</li> <li>市民が自ら活動する意識が乏しい</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>両者・参加したくない者の意志の尊重</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の意見を取り上げる「場」がない</li> <li>市民の考えや意見を十分に聴かないでいる</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>障害を持っていると社会参加をするにしても自由で一人で行か けられない事が多すぎる</li> <li>どうせ云ってもダメだから云わないとは誰も言わない行政と市民 の関係</li> <li>行政と市民の関係や地域での住民同士の関係が公平でない</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>いかにして情報を行政や市民等との間で共有するか？</li> </ul>	情報開示・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民・住民サイドからの提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政・行政情報の公開の充実(行政に対する住民参加が行いやすくなる)</li> <li>行政・ケースごとに役所の情報開示</li> <li>行政・大学を活かした情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政主導の出雲市</li> <li>合併して広域になったために、市全体に充分目が行き届かない 点がある</li> <li>役所の情報は、収集力が偏る</li> </ul>

市民懇話会意見																										
討議テーマ	市民懇話会意見																									
具体的な討議テーマ	目指すべき姿・方策																									
(新しい) 公共 ・公共サービスにおけるボランティアやNPO等の位置は？	<table border="1"> <tr> <td>NPO</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>NPO ・行政と対等の立場で対応する</li> <li>NPO ・官に頼らない団体</li> <li>NPO ・NPOは、市民参加の一つの手段</li> <li>NPO ・目的をもって作り、メンバー全員で目的のために働けるNPO</li> <li>NPO ・NPOの会員がどんどん意見の云える、そして意見が通してもらえるNPO</li> <li>NPO ・参加者が生活を犠牲にしなくていいNPOに</li> <li>NPO ・NPOの職員全員の給料もあげられるような団体になってほしい</li> <li>NPO ・NPOと1円株式会社をそれこそ協働</li> </ul> </td> <td rowspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官製NPOが多い</li> <li>・NPOは、行政の下請け的存在</li> <li>・NPOと云う名の幻想</li> <li>・NPOに期待しすぎている</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOを行政は「愛」を持つ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が口を出さない</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利益がなくて民間ができないことをするのがNPOであるから、行政はそれを理解したうえでNPOとつきあっていく</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>行政</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOが正常な運営ができるような方策を市がつくる</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </table>	NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO ・行政と対等の立場で対応する</li> <li>NPO ・官に頼らない団体</li> <li>NPO ・NPOは、市民参加の一つの手段</li> <li>NPO ・目的をもって作り、メンバー全員で目的のために働けるNPO</li> <li>NPO ・NPOの会員がどんどん意見の云える、そして意見が通してもらえるNPO</li> <li>NPO ・参加者が生活を犠牲にしなくていいNPOに</li> <li>NPO ・NPOの職員全員の給料もあげられるような団体になってほしい</li> <li>NPO ・NPOと1円株式会社をそれこそ協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官製NPOが多い</li> <li>・NPOは、行政の下請け的存在</li> <li>・NPOと云う名の幻想</li> <li>・NPOに期待しすぎている</li> </ul>	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOを行政は「愛」を持つ</li> </ul>	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が口を出さない</li> </ul>	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利益がなくて民間ができないことをするのがNPOであるから、行政はそれを理解したうえでNPOとつきあっていく</li> </ul>		行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOが正常な運営ができるような方策を市がつくる</li> </ul>													
NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO ・行政と対等の立場で対応する</li> <li>NPO ・官に頼らない団体</li> <li>NPO ・NPOは、市民参加の一つの手段</li> <li>NPO ・目的をもって作り、メンバー全員で目的のために働けるNPO</li> <li>NPO ・NPOの会員がどんどん意見の云える、そして意見が通してもらえるNPO</li> <li>NPO ・参加者が生活を犠牲にしなくていいNPOに</li> <li>NPO ・NPOの職員全員の給料もあげられるような団体になってほしい</li> <li>NPO ・NPOと1円株式会社をそれこそ協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官製NPOが多い</li> <li>・NPOは、行政の下請け的存在</li> <li>・NPOと云う名の幻想</li> <li>・NPOに期待しすぎている</li> </ul>																								
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOを行政は「愛」を持つ</li> </ul>																									
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が口を出さない</li> </ul>																									
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利益がなくて民間ができないことをするのがNPOであるから、行政はそれを理解したうえでNPOとつきあっていく</li> </ul>																									
	行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOが正常な運営ができるような方策を市がつくる</li> </ul>																								
・「協働」は必要か。必要とすれば、いかにすべきか？	<table border="1"> <tr> <td>協働</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>理想 ・市民参加の場を多く持ち、行政・市民が連携しながら住みよい町を作る</li> </ul> </td> <td rowspan="8"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように協働を進めてよいか分からない</li> <li>・協働への呼びかけが不十分である</li> <li>・市民参加のあり方にも混乱がある(市の役割、住民の役割)</li> <li>・協働とはいうものの、片方は仕事、片方はボランティアというようなアンバランスがある</li> <li>・ボランティアグループ、NPO、個人自由参加</li> <li>・ボランティアとして市民が参加する事業は、多くの場合、動員が行われている</li> <li>・市民のボランティア意識が薄い？</li> <li>・若者に限らずボランティアしたがない</li> <li>・社会福祉協議会まかせ</li> <li>・協働は、市民に役所が多くを求め過ぎ</li> <li>・協働と云う言葉を使いながら、市民の「力」を求めすぎる</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が活動に参加できる仕組みを作る</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の仕組みを作る</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に必要で、みんなが大切だと考えることを実施する 事業の内容を吟味、広報</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民と行政のやることを地域できちんと検証し、要望する</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域ごとに地域資源を再点検する(掘り起し)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互で情報を発信する</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よびかけを一部の人がばかりしない</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターアクトクラブやJRCなど学生の力を借りる(単位を与える)</li> </ul> </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>方策</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の協力</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </table>	協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想 ・市民参加の場を多く持ち、行政・市民が連携しながら住みよい町を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように協働を進めてよいか分からない</li> <li>・協働への呼びかけが不十分である</li> <li>・市民参加のあり方にも混乱がある(市の役割、住民の役割)</li> <li>・協働とはいうものの、片方は仕事、片方はボランティアというようなアンバランスがある</li> <li>・ボランティアグループ、NPO、個人自由参加</li> <li>・ボランティアとして市民が参加する事業は、多くの場合、動員が行われている</li> <li>・市民のボランティア意識が薄い？</li> <li>・若者に限らずボランティアしたがない</li> <li>・社会福祉協議会まかせ</li> <li>・協働は、市民に役所が多くを求め過ぎ</li> <li>・協働と云う言葉を使いながら、市民の「力」を求めすぎる</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が活動に参加できる仕組みを作る</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の仕組みを作る</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に必要で、みんなが大切だと考えることを実施する 事業の内容を吟味、広報</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民と行政のやることを地域できちんと検証し、要望する</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域ごとに地域資源を再点検する(掘り起し)</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互で情報を発信する</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よびかけを一部の人がばかりしない</li> </ul>		方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターアクトクラブやJRCなど学生の力を借りる(単位を与える)</li> </ul>			方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の協力</li> </ul>	
協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想 ・市民参加の場を多く持ち、行政・市民が連携しながら住みよい町を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように協働を進めてよいか分からない</li> <li>・協働への呼びかけが不十分である</li> <li>・市民参加のあり方にも混乱がある(市の役割、住民の役割)</li> <li>・協働とはいうものの、片方は仕事、片方はボランティアというようなアンバランスがある</li> <li>・ボランティアグループ、NPO、個人自由参加</li> <li>・ボランティアとして市民が参加する事業は、多くの場合、動員が行われている</li> <li>・市民のボランティア意識が薄い？</li> <li>・若者に限らずボランティアしたがない</li> <li>・社会福祉協議会まかせ</li> <li>・協働は、市民に役所が多くを求め過ぎ</li> <li>・協働と云う言葉を使いながら、市民の「力」を求めすぎる</li> </ul>																								
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が活動に参加できる仕組みを作る</li> </ul>																									
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の仕組みを作る</li> </ul>																									
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に必要で、みんなが大切だと考えることを実施する 事業の内容を吟味、広報</li> </ul>																									
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民と行政のやることを地域できちんと検証し、要望する</li> </ul>																									
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域ごとに地域資源を再点検する(掘り起し)</li> </ul>																									
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互で情報を発信する</li> </ul>																									
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よびかけを一部の人がばかりしない</li> </ul>																									
	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターアクトクラブやJRCなど学生の力を借りる(単位を与える)</li> </ul>																								
	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の協力</li> </ul>																								

市民懇話会意見				
討議テーマ	具体的な討議テーマ	目指すべき姿・方策		現状
地域コミュニティ	・地域コミュニティを活性化するにはどうすればいいか？	地域	<p>理想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共心の高いまち</li> <li>・地域コミュニティが大切にされるまち</li> <li>・子供からお年寄りまで広くコミュニケーションができて元気なまち</li> <li>・旧市町の人々が自分たちの町の特徴・特徴を大切にしながらも出雲市の明るい町づくりができること</li> <li>・ふれあいや活気のあるまち</li> <li>・助け合い等様々な奉仕活動が行われる地域</li> <li>・すべての市民が自由(容易)に参画できる社会(地域) 地域ボランティア 地域エゴ、偏見のない社会(地域)</li> <li>・地域を含めた多くの人々との触れ合い、コミュニティ体制作り</li> <li>・「地域力」を生かせる自治会、コミュニティに</li> <li>・自分の住む地域を愛し、みんなで仲良く暮らしていけるまちづくりをする</li> <li>・一人一人がやる気の持てる地域社会</li> <li>・住民と外国人が仲良く気持ちよく暮らせる出雲市に</li> </ul> <p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の垣根なく行事を一緒にしたい</li> <li>・よろず組織の強化(青ノ木隊や見守り隊にプラスして)</li> <li>・空き店舗を活用してコミュニティの場作り</li> <li>・地域で家族、家庭を大切に</li> <li>・地域の奉仕の心を守り伝える</li> <li>・地域でできることは地域で</li> <li>・住民主体・住民から盛り上がるまちづくり</li> <li>・地域行事の参加率をあげたい</li> <li>・地域の伝統を伝えてゆく</li> <li>・地域行事への参加に伴う費用負担を明確に(費用負担の公平化)</li> <li>・「まちづくりは自分たちの手でやる」ということの啓発</li> <li>・地域の安全は地域で守る</li> <li>・地域での防犯活動</li> <li>・外国人が地域のルールを守るまち</li> </ul> <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来的な行政行事は行政(支所)です</li> <li>・地域でできない(地域を越えること)ことは、議会で討議してもらう</li> <li>・動員や意味の分からない活動はやめる</li> </ul>	<p>・地域の過疎化</p> <p>・町内の行事が少子化のためか、無くなりつつある</p> <p>・各種行事への参加意欲が減少している</p> <p>・地区により少子化に伴い、行事もどんどんなくなっている</p> <p>・行事・イベントも参加が偏っている</p> <p>・地区のイベントを再考しない 旧態然である</p> <p>・地域行事が風化しつつある(まつり・とんどさん)</p> <p>・同じ活動の繰り返し(行事のマンネリ化)</p> <p>・各地区活動にも活性化的なものがない</p> <p>・合併に伴って地域の個性が薄らぎつつある</p> <p>・各地区の「原住人」の意見ばかりで、「異邦人」の意見が通らない</p> <p>・地域エゴ、偏見、閉鎖的、封建的風土</p> <p>・利害意識が狭い、広い世界を見ていない</p> <p>・封建性がとても強い</p> <p>・昔から住んでいる人が「牛耳って」いる</p> <p>・新しく地域に入ってきた人の意見が通らない。そうかといっても「旧人」には発想が何も無い</p> <p>・新しく自治会に入ろうとする「新しく転入した人」をすぐには自治会に入れない</p> <p>・町内行事に参加しにくい地域性が多々あると思う</p> <p>・一人ひとりがコミュニティ活動の在り方を認識していない</p> <p>・地域コミュニティを主体的に進めるのは住民なのに地区によっては主体的に進める者が少ない</p> <p>・(住民が)自治会活動をわずらわしいと考えている</p> <p>・住民がコミュニティ活動へ参加する意欲(意識)が低い</p> <p>・地域住民の連帯が非常に弱くなっている(今市の一部)</p> <p>・人間関係が希薄になっている</p> <p>・子供が近所の皆さんの顔を知る機会がありません</p> <p>・豊かなコミュニティが失われつつある</p> <p>・支所やコミセンに依頼されたことをやっている</p> <p>・消防団組織のルールやあり方を知る人が少ない</p> <p>・外国人のマナーが悪いまち</p> <p>・近隣同士の助け合い、お年寄りへの声かけ等の良き文化が残っている。</p>

		市民懇話会意見			
討議テーマ	具体的な討議テーマ	目指すべき姿・方策			現状
地域コミュニティ	・地域コミュニティを活性化するにはどうすればいいか？	地域・家庭・学校三者の連携	<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的・自発的な活動としてPTAの活動をみんながする</li> <li>・PTA本来の意味と役割を考え直す 多くを求めない</li> <li>・PTAや地域が共に学校運営に携わる</li> <li>・父親が学校の活動に参加できるためには職場の管理者の理解が必要である</li> <li>地域 地域と学校の継続的な顔が見えるつながり</li> <li>地域 地域はもっと学校に関心を持つべし(地域の各コミセンも含めて)</li> <li>地域  커뮤니티センターと学校の繋がりを持つ 文化の伝承など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAは多くを求められすぎてバンクしている</li> <li>・PTAの役員が熱心であれば地域が盛り上がる</li> <li>・PTA活動には、ほとんど母親が参加していて、父親の顔が見えない。</li> <li>・PTAは一部の人(共働き家庭でない)</li> <li>・PTA、学校、地域の連携がうまくいっている</li> <li>・家庭、学校、地域の相互連携の重要性が主張されて久しいが、地域と学校との連携は極めて困難であると実感</li> <li>・学校の活動に地域の高齢者が多く参加している</li> </ul>	
			<p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側から積極的に地域へ投げかける</li> <li>・誰もが出入りできる安全な環境を作る(学校)</li> <li>・学校側はもっとオープンになるべし</li> <li>・場所(学校)の活用(芝生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校(子ども)は地域の活力</li> <li>・地域は学校、教育のことを熱心に考えている</li> <li>・学校(教職員)が学校活動に参加する人々との交流をうまくやっている</li> <li>・学校の美観が失われている(雑草が生えている)</li> </ul>	
			<p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の件は、市も県ももっと意見交換をすべき</li> <li>・現在ある自治会、PTA、学校運営理事会等の見直し、活性化</li> <li>・選考(理事・委員等)、公募の必要性、本来の選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に開校日があるが、行く人が少ない</li> <li>・校区の自由選択区が増えていてわかりにくい</li> <li>・学校運営理事会の成果が今ひとつ。屋上おくではないか</li> <li>・学校運営理事会は、誰が理事を選考しているか？</li> </ul>	

討議テーマ		市民懇話会意見		
討議テーマ	具体的な討議テーマ	目指すべき姿・方策		現状
地域コミュニティ	・市政のなかに自治会等をどう位置づけるか？	自治会・町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想 ・明るい自治会</li> <li>理想 ・自治会全員参加</li> <li>理想 ・過去、現在、未来の住民の民意を大切に</li> <li>理想 ・アパート賃貸マンション住人の自治会加入が増えてほしい</li> <li>理想 ・皆さんの意見が言える自治会</li> <li>方策 ・参加しやすい新しい組織をつくる</li> <li>方策 ・一人が一役</li> <li>方策 ・役員を偏らせない</li> <li>方策 ・町内会組織の見直し</li> <li>方策 ・各地域の実情に即した実行力のある新しい組織づくり</li> <li>方策 ・地域住民の意見が反映できる体制・組織</li> <li>方策 ・自治会役員は1期で変わるべき</li> <li>方策 ・興味のない人に役員になってもらったら、興味を持ってくれる気もする</li> <li>方策 ・非協力的な人にどンドン声をかけて役をしてもらう</li> <li>方策 ・自治協会入会、地域ごとにアイデアを出し合う</li> <li>方策 ・自治会(コミュニティ)での役員を選挙でやったら、大きくは市議会の活性化につながる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会加入率の低下</li> <li>・自治会加入率(出雲市全体) 70.7%(H22年4月)</li> <li>・民間アパートは、大家は町内会があると入居してもらえないと考え、町内会のないところが多い</li> <li>・地元の島根大学医学部付属病院の医師であるにもかかわらず、町内会に入らない</li> <li>・市役所職員であるにもかかわらず自治会に入らない人がいる</li> <li>・新興住宅地に入居した住民が自治会を立ち上げない</li> <li>・新興住宅地の町内会加入率が低い</li> <li>・民間アパートに住む外国人も町内会にはいっていない</li> <li>・地域によって自治会加入率が違うことで市政運営に問題が生じている</li> <li>・自治協会への加入と市民参加の関係があればよい</li> <li>・加入しても活動に消極的</li> <li>・自治会の役割がわからない</li> <li>・現在の自治会はコミュニティとは言えないのではないかと</li> <li>・メンバー固定化</li> <li>・自治会役員がなかなかかわらない</li> <li>・一人が何役も</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>行政 ・自治区の区割を明確にする</li> <li>行政 ・自治区の再編成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が多くなり自治会の運営が困難になっている</li> <li>・所属自治会がわかりにくい</li> <li>・町内会の高齢化</li> <li>・(自治会)町内会と行政のつながり難しい</li> <li>・自治会(コミュニティ)が、市の担当部署に遠慮しすぎている</li> <li>・自治会費は払っているが活動はしていない</li> <li>・自治行事のかけもちをしている(実家、嫁実家、自分の住居)</li> <li>・自治会が行政からの一方的なサービスを期待している</li> <li>・市議会で質問が出、自治会加入促進のプロジェクトチームが立ち上げられた</li> </ul>	
		コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>理想 ・コミュニティの中心の場としてコミセンを活用</li> <li>理想 ・コミセンは、住民サービス(市民参加)の拠点</li> <li>理想 ・利用しやすいコミセン(コミュニティ活動)</li> <li>方策 ・コミセンと自治会の一体化</li> <li>方策 ・コミセンで魅力ある行事を行う。新しい企画等をコミセンが受け入れられるような仕掛けづくりが必要</li> <li>方策 ・市役所とコミセンの連携を密にする</li> <li>方策 ・コミセンから小さな自治団体に呼びかける</li> <li>方策 ・選考(理事・委員等)、公募の必要性、本来の選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミセンは誰のものか</li> <li>・コミセンが行政の下請化している(合併のデメリット)(独自活動が少ない)</li> <li>・コミセン運営委員会委員は誰によって選考されているか</li> <li>・コミセン活動と自治会活動は表裏一体</li> </ul>